

オキナワモズク養殖適地試験Ⅲ

本部駐在 與那嶺 盛次

1. 目的

国頭村のオキナワモズク(以後、本モズクという)養殖場は、西海岸に多く、そこでは北風の影響で本モズクが切れるところが多いため、東海岸において昨年度に引き続いて養殖適地試験を実施した。また、伊是名村においてもサンゴの繁殖等で養殖漁場が狭められていることから、同じく養殖適地試験を実施した。

2. 材料及び方法

国頭村：養殖適地試験は、国頭漁協養殖部会と行った。本モズク種苗は、培養種を普及センター本部駐在より提供し、拡大培養して種付けを2回実施した。養殖試験場所は東村宮城地先で、養殖網(1.5×20.0m)50枚と75枚で実施した。

伊是名村：養殖適地試験は、伊是名漁協モズク生産部会と合同で行った。本モズク種苗は、培養種を普及センター本部駐在より提供し、拡大培養して種付けを実施した。養殖試験場所は伊勢名村伊是名地先で、養殖網(1.5×18.5m)100枚で実施した。

3. 結果及び考察

国頭村：平成19年11月7日、本モズク培養種を使用して養殖網50枚を種付けし、12月10日に東村宮城地先で育苗を実施した。12月26日の潜水観察で養殖網が茶色になっていたため、少し網を切り取って持ち帰り顕微鏡で芽出しを確認した。

その後、生育不良のため本張りに至らなかった。これは平成20年1月中旬からの日照不足により生育不良になったと考えられる。そこで、再度養殖網75枚を種付けし平成20年2月10

日から東村宮城地先で育苗を行った。4月15日の育苗状況の潜水観察では、雑藻も少なく、藻体の長さも長く約10cmまで伸びていたため、本張りに移した。

平成20年6月19日から7月22日までの7日間で収穫を実施し、3,520kg(養殖網75枚)を水揚げした。養殖網1枚当たりの収穫量は46.9kgで、前回に比較して若干悪かった。

試験養殖漁場の東村宮城地先は、水深約3～4mのホンダワラ藻場が若干ある砂地の広い漁場である。今回も含めてこれまで3回の試験を実施し養殖網1枚当たりの収穫量は、1回目が96.3kg、2回目が52.0kgで、天候不順等の影響を考慮すれば、モズク養殖場として適当と思われる。

伊是名村：平成19年11月12日、本モズク培養種を使用して養殖網100枚を種付けし、12月20日に伊是名地先で育苗を実施した。平成20年2月26日本張りに移した。

平成20年4月25日から4月30日までの6日間で収穫を実施し、5,190kg(養殖網100枚)を水揚げした。養殖網1枚当たりの収穫量は51.9kgで、前回とほぼ同じでそれほど良くなかった。今回は、平成20年1月中旬からの天候不順による日照不足が影響したと考えられる。

試験養殖漁場の伊是名地先は、アマモ場の沖合いにある水深約2～3mの狭い漁場であるが、今回も含めてこれまで3回の試験を実施し、養殖網1枚当たりの収穫量は、1回目が88.7kg、2回目が53.6kgで、天候不順等の影響を考慮すれば、モズク養殖場として適当と思われる。

4. 今後の課題

(1) モズク養殖漁業権設定後の有効活用



①国頭漁協養殖部会モズク培養種拡大状況



②国頭漁協養殖部会モズク種付け状況



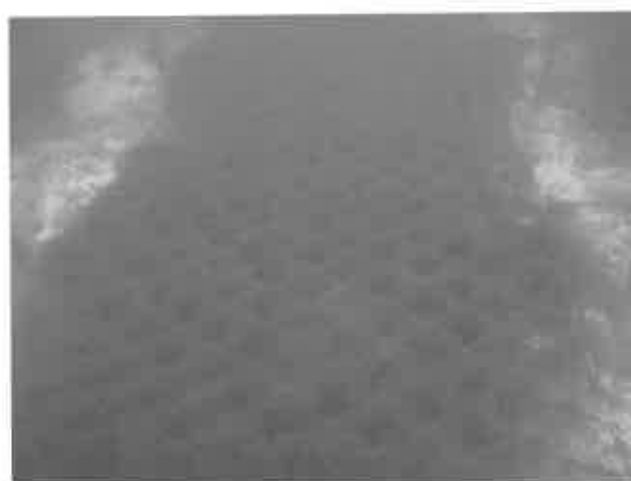
③東村宮城地先の育苗状況



④東村宮城地先の育苗状況



⑤伊是名地先のモズク本張り状況



⑥伊是名地先のモズク本張り状況